

## 守れなかつた上津遺跡 出発点



いわい・てるよし 1948年、相楽郡木津町（現・木津川市）生まれ。奈良県立大学商学部卒。1978年、「木津の文化財と緑を守る会」創設。木津川市文化財保護審議会審議員。

木津川近くにある木津町の御霊神社北側の住宅地に、自然石二つを組み合わせた大きな石碑が立っている。それには「上津遺跡」とある。今の私の活動の出発点となる思い出深い地だ。もう40年ほど前の1978（昭和53）年5月の連休に、前年度発掘調査した上

木津の文化財と緑を守る会会長

## 岩井 照芳①

津遺跡の「遺物出土展」が開かれた。見学の後「この遺跡は保存されるのですか」と聞くと「潰され建売住宅になる」との返事。

奈良県庁で明日香や香久山などの古都保存法特別地区の用地買収の仕事に携わっていた私にとって、大事な遺跡は保存して当然との意識があり驚いた。

すぐに友人たちに声を掛け保存運動を始めたが、年配者から「保存運動を起こすほどの価値ある遺跡か？」との疑問の声が出た。そこで、県庁で同僚だっ

た菅谷文則さん（現・橿原考古学研究所長）に見解を求めると「平城京の物資の陸揚げ港として栄えた非常に重要な遺跡」と言われた。これに自信を得て同年8月13日「木津の文化財と緑を守る会」を立ち上げた。町長や町議会に要望書を出し住民にも訴えたが見事に失敗。建売住宅ができた。「なぜ守れなかったのか」。遺跡の価値判断すら自身で出来なければ説得力に欠けるとの反省が起きた。

基礎知識をつけようと郷土史の勉強会が始まった。聞き取り調査や古文書探し。それが現在の歴史研究につながっていると思う。

上津遺跡は守れなかったが、木津町はその後、遺跡の一面を買い上げ、高さ155センチもの大きな石碑を建立してくれた。保存運動のせめてもの成果であった。

四季  
つれづれ